

可茂農林事務所の普及活動状況（11月）

今月の重点活動

■ 水稻 **スマート農業実証農場事業 調査および実演会開催**

今年度、スマート農業実証農場事業を活用して、(有)春見ライスに収量計測コンバインが導入されました。収穫に関わる作業時間の短縮について、(有)春見ライス・美濃加茂市役所・JAめぐみの・可茂農林事務所で実証調査を行いました。

収穫中にコンバインモニターにタンクの籾重量が表示され、適時に籾運搬者に連絡することにより運搬者待機時間を

短縮することができました。また、コンテナ内の生籾重量を表記することにより、作業に不慣れた従業員でも、乾燥機に入れるコンテナの振り分けを適切に行うことができました。今までは勘に頼っていた作業を、数値化することにより的確に対処できることが実証できました。

それを受け、11月4日に可茂地域の担い手を対象としたコンバイン実演会を開催し、美濃加茂市役所から実証調査の結果報告がされました。また、スマートアシストと連動したほ場管理の効率化について(有)春見ライスから報告されました。

参加者は、コンバインの運転席に実際に乗って、モニター表示を確認しました。また、パソコンで各ほ場の栽培工程を地図と連動して管理できることに関心を示していました。

(地域支援第一係・鷲見彩子)



【ほ場管理システムの説明】

売れるブランドづくり

■ 小麦 **小麦の播種が始まる**

富加町では地元の農事組合法人が中心となって小麦を栽培しています。

今年は、昨年より1週間ほど早い10月27日から播種を始め、天候にも恵まれたこともあり、計画通りに11月9日に終了することができました。

農林事務所では、今後、法人と協力して、従来より穂肥を増やすことで収量を向上させる試験を実施し、経営安定に結び付くよう支援をしていきます。



【播種準備する農家】

(地域支援第一係・宮地雄二)

■ 大豆（中鉄砲） **収穫が始まる**

可児地域では、2法人が地域特産大豆「中鉄砲」を栽培しています。今年は7月の長雨により播種作業が遅れ、ほとんどが8月播種となる中、梅雨入り前の6月中に播種したほ場では順調に生育して成熟期を迎え、11月17日より収穫作業が始まりました。

農林事務所では、単収向上を目標に、関係機関と連携して施肥改善の実証試験を行いました。今後は、成熟期調査、収量・品質調査を行い、生産者に適切な栽培体系の提案を行っていきます。



【成熟期を迎えた大豆「中鉄砲」】

(地域支援第二係・加藤昌亮・加藤瑞穂)

■ 夏秋トマト・いちご **アシストスーツを試着・試用**

スマート農業推進センターによるスマート農業機械・機器貸出事業を活用して、農林事務所では、美濃白川夏秋トマト部会といちご生産組合青年部に働きかけて、アシストスーツ体験会を実施しました。

夏秋トマト部会では、11月12日に機器を借り受けてトマト選果場で部会員が試着・試用し、いちご青年部では推進センターで開催されたスマート農業技術向上研修(10月28日)に参加し試着しました。

トマト部会では、「収穫物をまとめて運びたいときや、ホルモン処理・わき芽かき作業で負担軽減になりそう」、いちご青年部では「中腰の姿勢での収穫作業ではアシストスーツによって軽労化が図られそうだ」「思ったよりも軽い」との感想が述べられました。

今後も、生産者とともに作業の軽労化に向けて検討を続けていきます。

(園芸産地支援係 熊澤良介・矢島雄二)



【アシストスーツを試着】

■ 栗 **新規栽培希望者講習会を実施**

11月6日、出荷を目的とした新規栽培希望者を対象に栗栽培講習会を八百津町で開催しました。講習会には八百津町7名、可児市6名、美濃加茂市1名の合計14名の参加があり、うち9名が新植の個別指導を希望しました。11月17日までに八百津町1名、可児市4名、美濃加茂市1名の合計6名に巡回指導を行い、近年にない約50aの新植開園ができることとなりました。これらの新植開園の多くは耕作放棄地であり、耕作放棄地の解消につながりました。

農林事務所では、今後残りの3名の個別指導を行い、4年後の出荷に向け指導を行っていきます。



【講習会の様子】

(園芸産地支援係・宮田洋輔)

多様な担い手づくり

■ 新規就農者 **新規就農研修生集合研修**

10月30日から、毎週金曜日にJAめぐみの本店にて新規就農研修生集合研修が開催されており、研修生や新規就農者等約20名が受講しています。新たな試みとして、今年は新型コロナウイルス対策のためオンライン配信を開始しています。

「植物生理」「土壌肥料」の講義は可茂農林事務所が講師を担当し、受講生に植物の生理生態に基づく農作物管理の必要性や土壌肥料の基礎、土壌診断、土づくりなどについて講義しました。

今後も、研修機関と協力し、新規就農者の早期経営安定を目的とする本研修に積極的に参画していきます。



【講義を行う普及指導員】

(地域支援第二係・加藤昌亮；園芸産地支援係・矢嶋雄二)